

平成22年度 創立者古屋賞・山梨学院スチューデントズ オブ ザ イヤー賞 受賞者一覧

【創立者古屋賞】							
NO	部門	氏 名	学科	学年	クラブ等	内 容	
1	創立者 古屋賞	アサミ 浅見	ハルナ 八瑠奈	現代 ビジネス	4	柔道部	世界柔道選手権2010東京大会 48kg級 優勝(平成22年) 第25回ユニバーシアード競技大会 48kg級 優勝(平成21年) 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 48kg級 優勝(平成22年) 第24回全日本学生柔道体重別選手権大会 48kg級 優勝(平成20年)
2	創立者 古屋賞	タナカ 田中	ショウタロウ 翔太郎	現代 ビジネス	4	スケート部	第32回日本学生ショートトラックスピードスケート選手権大会 1000m・1500m 優勝(平成21年) 第33回日本学生ショートトラックスピードスケート選手権大会 1500m 優勝(平成22年) 第24回ユニバーシアード冬季競技大会 ショートトラック日本代表(平成21年) 第25回ユニバーシアード冬季競技大会 ショートトラック日本代表(平成22年) 2010ショートトラックアジア選手権大会 日本代表(平成22年)
3	創立者 古屋賞	クボ 久保	リョウタ 良太	法	4	ホッケー部	高円宮杯2010ホッケー日本リーグ 優勝に貢献 最優秀選手(平成22年) 第59回全日本学生ホッケー選手権大会 優勝に貢献 最優秀選手(平成22年) ジュニアワールドカップ 日本代表キャプテンとして出場(平成21年)

【スチューデントズ オブ ザ イヤー賞・大学院】						
NO	部門	氏 名	学科	学年	クラブ等	内 容
1	学術 (修士論文)	オノ 小野 ゆかり	社会科学 研究科	2	秋峯晴男ゼミ	修士論文「消費税制における複数税率の採用の利点」は、極めて優れた論文である。最近、消費税率の引き上げを中心とした消費税制度の改正が現実化してきている。そこで、本論文では、消費税率が引き上げられた場合の「食料品に対する非課税措置・軽減税率の適用の是非」を中心に、わが国消費税制の将来像について検討している。本論文は、基本的な文献の適切な収集・利用、論理の一貫した展開、先行研究の適切な整理・利用、論点についての適切な検討と取りまとめがなされており、修士論文として極めて優れたものであると評価できる。
2	学術 (修士論文)	カワカミ 川上 カツシ 勝俊	社会科学 研究科	2	日高昭夫ゼミ	修士論文「NPOによる地域内資源循環の可能性」は、極めて優れた論文である。本論文は、経済至上主義による地域の疲弊が広がる中で、地域への「愛着」を基軸とした多様な地域資源の再結合によって、地域再生を図ろうとするものである。この再生の推進力としてのNPOネットワークの可能性を、歴史的かつ理論的に論じている。報徳運動などの日本社会に古くからある非営利組織の活動や思想に配慮しつつ、異質で多様なNPO間のネットワーク形成という現代的課題に鋭く応えている。これから地域において、主体的にNPOを担っていくための理論的基盤を構築していると評価できる。
3	資格	ソン 孫 テキカン 迪漢	社会科学 研究科	1		平成22年11月実施の「日商簿記検定試験1級」に、留学生というハンディを負いながら見事合格した。同試験は、実受験者数17,027名、合格者数2,258名で、合格率13.3%の難関試験であり、日本人学生でも合格が非常に困難な試験である。

【スチューデントズ オブ ザ イヤー賞・大学】

NO	部門	氏 名	学科	学年	クラブ等	内 容	
1	学術 (卒業論文)	イマイ 今井	ミキ 美希	法	4	竹端 寛ゼミ	卒業論文「自閉症スペクトラムにおける当事者和他者との認識の違いについて ―溝を埋めるために―」は、自閉症児と関わるボランティア活動を行った体験や自分自身への深い内省からテーマを設定したものである。このテーマに対する内在的関心は、本論文の特徴であり長所として特筆できる。論考は、「自閉症に対する『根本的な内在的論理を当事者和他者が共同で研究』することが両者の認識の溝を失くすために重要である」とする結論へと導かれるが、そこに至る論文構成は、詳細な目次に見るとおり緻密であり、十分な参考文献の学習に裏づけられて丁寧に論じられている。テーマ設定の経緯からして、本論文を通じて自分自身を見つめ直そうとする真摯な取り組みがなされており、これこそ卒業論文作成を課す本学の意図に応えるものである。
2	学術	ナカザワ 中澤	キミエ 君衣	法	4		本学生は、将来税理士を目指しており、更に税法を研究するために、本学卒業後は中央大学大学院商学研究科への進学が決定している。また、1年次から旧司法研究室(現法科大学院研究室)に在籍し、学部の成績が優秀であることはもちろん、宅地建物取引主任者資格をはじめ、ファイナンシャル・プランニング技能士、簿記検定、法学検定など数々の資格を取得し、4年間連続してエクセレント奨学生としても認定を受けた。こうした実績は、資格取得を目指す他の学生にも良い影響を及ぼしており、アドバイザー的な役割も果たした。さらに卒業論文は、消費税減税に関するもので、大変優れた内容である。学業面のみならず、教員や周囲の学生からも厚い信頼を受ける存在である。
3	学術 (卒業論文)	スナヤマ 砂山	ケンジ 剣治	政治行政	4	外川伸一ゼミ	この卒業論文は、行政改革の一形態であるニュー・パブリック・マネジメント(NPM)についての詳細な分析と問題点とを論じたものである。最後に、結論に基づいて著者自身のオリジナルな見解を提示した優れた論文であると言える。また、取り扱っている対象の範囲、それぞれの論点の提示等、論文としての基本的な要件を十分に満たしている。さらに、文献の多さと詳細な記述とは、目を特別に引く観がある。
4	学術 (卒業論文)	イワマ 岩間	チヒロ 千容	現代 ビジネス	4	今井 久ゼミ	卒業論文「エコロジー意識を高めレジ袋を削減するには」は、平成22年度現代ビジネス学部の優秀論文に決定した。決定理由としては、第一に、問題設定としては特に独創的とはいえないものの、エコバック持参やレジ袋の購買行動の背後にある要因を環境(エコロジー)意識と経済(エコノミー)意識とに分類し、エコロジー活動の背後にある消費者の心理的要因を明らかにしており、こうした論点は、消費者のエコに関する心理や購買行動を論じる上で興味深いテーマであると思われる。第二に、仮説を提示し、それをアンケート調査という形で検証しようと試みている点は評価できる。今後は、本研究で得られたデータの分析を深めることで、より説得的な論文となることが期待される。
5	学術 (卒業論文)	トウ 湯	エン 艶	経営情報	4	堀越芳昭ゼミ	卒業論文「CSRの理論から実践への転換」は、極めて水準の高い論文であり、平成22年度経営情報学部の卒業論文の最優秀賞を受賞したものである。論文の問題意識は、「理論(CSR)をいかに実践に移すか」という優れて意欲的かつ時宜に適ったものであり、論文構成も、その分野の先行研究をきちんと踏まえ、国際的な最新の動向もしっかり押さえた内容である。さらに、企業経営における企業成員の参加の重要性など積極的な問題提起がなされ、どこに出しても恥ずかしくない秀逸な論文と言える。
6	スポーツ	アリゾノ 有蘭	タクマ 拓真	法	3	レスリング部	天皇杯レスリング全日本選手権大会 グレコローマンスタイル96kg級 2位
7	スポーツ	ナカグチ 中口	ユキエ 雪絵	現代 ビジネス	2	スケート部 (女子)	第33回日本学生ショートトラックスピードスケート選手権大会 500m 優勝
8	スポーツ	オンディバ コスマス	現代 ビジネス	3	陸上競技部	第87回東京・箱根間往復大学駅伝競走大会 第3区 区間賞	

NO	部門	氏 名	学科	学年	クラブ等	内 容
9	スポーツ	キタザト 北里 謙治	経営情報	3	ホッケー部 (男子)	第16回アジア大会 ホッケー競技 出場 6位
10	スポーツ	ナガヤマ 永山 カナ	経営情報	3	ホッケー部 (女子)	第16回アジア大会 ホッケー競技 出場 3位
11	スポーツ	シミズ 清水 ケント	政治行政	1	柔道部 (男子)	2010年世界ジュニア柔道選手権大会 66kg級 優勝
12	スポーツ	ヤマベ 山部 カナエ	法	2	柔道部 (女子)	平成22年講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 78kg超級 優勝
13	スポーツ	スズキ 鈴木 サトミ	経営情報	2	水泳部 (女子)	アジア競技大会 競泳競技 100m平泳ぎ 2位 第86回日本選手権水泳競技大会 50m・100m・200m平泳ぎ 優勝
14	スポーツ	オオサワ 大澤 アイカ	経営情報	2	テニス部	2010全韓国学生室内テニス選手権大会 シングルス・ダブル 優勝
15	スポーツ	ヤマダ 山田 マスミ	法	3	バスケットボール部 (女子)	第60回関東大学女子バスケットボールリーグ戦 2部優勝 優秀選手賞
16	スポーツ	ハタサコ 畑迫 リョウコ	法	2	ソフトボール部	平成22年度関東学生ソフトボール(1部)春季・秋季2季連続優勝
17	スポーツ	モチヅキ 望月 タツヤ	政治行政	4	サッカー部	平成22年度第43回東京都大学サッカーリーグ戦 2部優勝・1部昇格に貢献
18	スポーツ	ハセガワ 長谷川 タクミ	政治行政	4	空手道部	第20回世界空手道選手権大会 団体形 準優勝
19	資格	ショウジ 正司 タクヤ	現代 ビジネス	4	資格 チャレンジ 総合研究室	2年次10月、日商簿記検定試験の合格を目標に資格チャレンジ総合研究室に入室し、放課後や夏期休暇を利用して継続的な受験勉強を開始した。翌月には「日商簿記検定試験2級」に合格、更なる努力によって実力は着実に向上し、昨年6月に2回目の挑戦で見事難関の「日商簿記検定試験1級」に合格した。現在は、税理士資格取得を目指して、当研究室のみならず、大手簿記専門学校にも通学し、合格に向けて努力を継続している。
20	資格	フルヤ 古屋 ユキ	経営情報	3		本学生は、難関国家資格の一つである「応用情報技術者試験」に合格した。当資格は経済産業省が認定する国家資格で、情報処理技術者のための資格のうち、「高度IT人材となるために必要な応用的知識を持ち、高度IT人材としての方向性を確立した者」を対象としているが、実務経験者であっても合格が難しい。今年度秋季の合格率は20%程度で、全国9898名の合格者のうち、山梨県内は28名しかない。また、大学生の合格者は全国で433名で、そのうち文系の情報系学部生は23名である。本学生は、2年次に「基本情報技術者試験」にも合格しており、今後の更なる活躍が期待できる。
21	団体活動	イノ 井野 ヒトミ	法	4		過去3年間に於いて、スポーツ強化指定選手への学習支援活動である「S.S.A.(Study Support for Athletes)制度」にスチューデント・アドバイザーとして参加し、多大な貢献をした。特に、法学科1年生の前期必修科目(刑法Ⅰ、民法総則A、憲法Ⅰ)の内容をまとめた分かりやすい資料は、同選手たちの学習に大いに役立ち、好評であった。また、後期も法学科の中心的アドバイザーとして、前期同様、独自に工夫した資料を作成してサポートを続けている。さらに、他のスチューデント・アドバイザーのお手本的存在でもあり、周囲からの信頼も厚い。
22	団体活動	山梨学院ALTEES (チアリーダー部)				在学生のクラブ活動や地域社会に対する奉仕活動への参加が少なくなっている昨今にあって、チアリーダー部部員の活動には目覚ましいものがある。部員各人が学業に励むのはもちろんのこと、課外活動としてチアリーダー部に所属し、厳しい環境の中で練習を重ねて技術を習得している。また、大学行事はもとより、地域社会における様々なイベントにも積極的に参加し、多方面から感謝され、賞賛されている。このように、チアリーダー部の活動は、大学生の鑑として極めて評価に値するものである。
23	団体活動	ウインドブラス アンサンブル				入学式や卒業式などの式典、箱根駅伝をはじめとする各種スポーツ競技大会の応援など、様々な学校行事に積極的に参加し、大学に対する貢献度は非常に高い。また、個人の演奏レベルの高さは、各種コンテストでの結果がそれを証明している。平成23年1月30日に山梨市花かげホールで開催された「第21回山梨県管・打楽器ソロコンテスト 大学生・一般部門 木管楽器の部」において、政治行政学科4年の明神一平さんが見事第1位となり、山梨県教育長賞及び山日・YBS楯を受賞した。(ピアノ伴奏は、短期大学専攻科保育専攻1年内藤理紗さんが担当) また、平成22年12月19日に山梨県民文化ホールで開催された「第34回山梨県吹奏楽アンサンブルコンテスト 木管の部(クラリネット四重奏)」において、短期大学食物栄養科2年田中理紗さん、遠藤芙美香さん、保育科2年内田真紀さん、佐野真梨菜さんの4名が最優秀である金賞を受賞した。

【スチューデントズ オブ ザ イヤー賞・短期大学】						
NO	部門	氏 名	学科	学年	クラブ等	内 容
1	資格	オオエノキ 大榎 さと美	食物栄養	2		一般消費者がサプリメントを使用するにあたり、正しい最新の知識を提供し、その選択・使用において適切なアドバイスを行う資格「サプリメントアドバイザー」の認定試験に見事合格した。取得には、栄養士必修の教科目のほか、薬理学や最新のサプリメント動向など多くの知識の習得が必要であり、取得者の多くは薬剤師が占めている。この資格取得を通して、現在の日本の健康問題を深く理解したことは、栄養士の知識に付加能力を授け、保健領域のエキスパートとして大きな成長をもたらした。社会のニーズに対応できる新しいスタイルの栄養士として、今後の活躍が大いに期待できる。
2	資格	ナカザワ 中沢 アサミ	食物栄養	2		一般消費者がサプリメントを使用するにあたり、正しい最新の知識を提供し、その選択・使用において適切なアドバイスを行う資格「サプリメントアドバイザー」の認定試験に見事合格した。取得には、栄養士必修の教科目のほか、薬理学や最新のサプリメント動向など多くの知識の習得が必要であり、取得者の多くは薬剤師が占めている。この資格取得を通して、現在の日本の健康問題を深く理解したことは、栄養士の知識に付加能力を授け、保健領域のエキスパートとして大きな成長をもたらした。社会のニーズに対応できる新しいスタイルの栄養士として、今後の活躍が大いに期待できる。
3	社会活動	子育て支援活動 推進グループ	保育	2	山内淳子ゼミ	FM甲府において、10年以上に亘り約700回放送されている、ラジオ子育て相談番組「楽しい子育て」(回答者は、附属幼稚園前園長・現教育顧問及び同園主任の2名)の相談・回答内容のうち、約230回分の書き起こしを卒業研究の一環として行った。これは、前年度のゼミの先輩達の研究活動を引き継いで行われたものでもある。その内容は、Q&A形式に要約された上で、今後、本附属幼稚園及び本短期大学の「子育て支援」に関わるホームページに順次公開していく計画である。子育てに不安を抱える保護者、さらには、そうした保護者を支えていくことに難しさを感じている若い保育者が数多くいる今日、広く様々な子育ての悩みに応えていくことは大変重要であり、この活動は保育科学生の社会貢献として極めて価値あるものである。